

一般質問

12月定例会



長島 正一 議員

Q 鳥獣害の現状と対策は

野生鳥獣被害が深刻になる中、6千万円余の予算投入により、防護柵設置や鳥獣被害対策実施隊への年間捕獲が認められ、捕獲頭数は大幅増と聞く。

対策には、捕獲・解体・加工販売の総合対策が重要だが、今後どう取り組むのか。

A 対策協議会の充実で

町長 山崎 英樹

捕獲頭数は、猟友会の協力により大幅増となっている(猪418頭・鹿37頭)。

33地区で防護柵、箱わな等の設置を行った。今後も継続する。

防護柵の効果を発揮させるには、住民を巻き込んだ取り組みが重要だ。

鳥獣害対策協議会を機能させ、被害対策を進めていく。

Q 野生鳥獣肉の活用を

ジビエ(野生鳥獣肉)は、古くから農山村の貴重なタンパク源として発達した食文化である。国はジビエによる地域活性化を推進し、全国でブームとなっている。

住民からは地域資源としての活用を望む声がある。まずは、地元飲食店等での活用が必要ではないか。



地域資源として活用できるか?

A 名物料理としての定着を

町長 山崎 英樹

ふるさと納税の返礼品として牡丹鍋セットは好評(年間236件)である。

本町の名物料理として定着を図るため、異業種連携が大切と考える。

加工品評会等により、伝統料理の発掘や人材の掘り起こしを考えていく。

Q 町政の基本姿勢を問う

国は医療・介護等、社会保障費削減を検討している。

平成30年には、3つの改革(農業改革、介護保険制度改正、報酬改定、国民健康保険制度改正)が計画されている。一方、世界的には市場原理社会が変化し、「豊かさ」から「幸せ」への転換期を迎えようとしている。

今こそ田舎の良さを取り戻すチャンスだと思ふ。町長の基本姿勢を問う。

A 皆が幸せな飯南町を

町長 山崎 英樹

政策の柱は次のとおりである。3つの守りとして、「医療・福祉施設」「町内企業・事業所」「集落・地域」を守る。3つの攻めとして、「産業振興・モノづくり」、「教育振興・人材育成」、「定住・人材誘致」の推進を図る。

基本姿勢は、住民一人ひとりに目を向け、みんなが元気で幸せを感じるまちをつくることである。

一般質問

12月定例会



永井 章 議員

Q 土木予算確保を

本町では道路改良事業、通路整備事業、橋梁長寿命化事業は、国の社会資本整備総合交付金によって事業が実施されている。平成28年度は交付金が要望額より下回った。平成29年度の交付金増額への努力を望むが、町長の決意はどうか。

A 予算確保に全力で

町長 山崎 英樹

社会資本整備交付金は、近年減少している。本年の建設改良予算額はピークであった平成25年とほぼ同額の予算が確保できた。この交付金は頓原、町区の周辺整備の財源に充てるものだ。

住民生活を守るための生活基盤の整備にかかる公共事業については、町民の生活に影響が出ないよう、予算確保に全力で取り組む。



再開発が待たれる旧頓原庁舎付近

Q 断層の本町への影響は

これまで三瓶山南東部で断層の確認はされていなかったが、昨年4月に調査が開始され、地表の岩石観察の結果、幅1センチ未満の発達過程の断層が約100本発見され、三次付近まで広がっている可能性があると発表された。島根大学の向吉秀樹助教は「活断層の存在が明確でなくても、大きな地震がおこる恐れがあり備えて欲しい」と指摘している。

本町への影響を含め、喫緊の課題として検討が必要ではないか。町長の考えを問う。

A 地域防災計画で対応

町長 山崎 英樹

島根大学の向吉助教が本町に関する新たな断層を確認された。この断層に関して島根県ではさらなる調査が進み、知見が認められれば、地域防災計画の被害想定に加えるが、現時点では特段の取り扱いが行われない。

本町も特段の扱いをせず、飯南町地域防災計画で対応する。

